

平和の大切さを伝えるために

8月6日、広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式が広島の平和記念公園で行われ、本市から市内公立中学校の生徒代表8人を含む13人の平和使節団が参列し、原爆が投下された午前8時15分に黙とうをささげました。

また、各中学校、地区長連合会、女性団体連絡協議会、青年会議所、市役所に来庁した方々、市職員が、平和への願いを込めて折った千羽鶴(約1万5千羽)を公園内にある「原爆の子の像」にささげました。



園総務課 ☎826・1111 内線2212



土浦市地区長連合会 近藤 修さん
平成22年8月6日午前8時15分、紺碧の空に真っ白な雲、周囲の緑から蝉しづれが激しく耳に響く平和記念式典の会場です。

65年前の同日同時刻、今日と同じ猛暑の中、この場所を爆心地として、あの忌まわしい原子爆弾が投下されたのです。
前日、見学したこの会場の隣接地にある「平和記念資料館」の展示資料には、爆発による熱線で焼かれたり、爆風に吹き飛ばされた人々、建物倒壊の下敷きになっ

たり、多くの人々が死傷した様子には、目を覆いたくなるような無残な姿を見て、核兵器の恐ろしさや怒りさえ覚ええました。

ややもすると、月日の流れの中で忘れ去られるのが世の常でありませんが、世界で唯一の被爆国である我々国民の一人一人が広島に足を運び、この負の遺産と正面から向き合い、平和の尊さ、命の尊厳と核兵器の廃絶にもっともつと考えあつた必要を感じました。

今年の平和記念式典には、昨年より5千人多い5万5千人の参加者が発表されました。

特に核兵器保有国の代表者や、国連事務総長、米政府代表の駐日大使の参加は、核兵器廃絶運動の中心にある広島に世界が徐々に近づいて来ていることを感じます。

最後に、このような貴重な体験を与えてくださった市当局へお礼と感謝を申し上げます。



土浦市女性団体連絡協議会 三谷 富子さん
夏を迎えました。抜ける様な青空そして純白に輝く雲は美しく、今日の平和の享受は65年前の犠牲者の上に立っているのです。

今回の記念式典は、初参加の潘基文国連事務総長や、米国のジョン・ルーズ駐日大使をはじめ、74カ国の政府代表など5万5千人の被爆者、遺族、市民たちが参加して犠牲者を悼みました。私たちの願いはただ一つ、「核兵器のない世界の実現を！」そして2020年までの核兵器廃絶のために大きなうねりをつくることを誓いました。

私は今回使節団に参加させて頂いて、改めて「戦争と平和」について考えねばと痛感いたしました。この貴重な体験を得る機会をお与え下さいました皆さまに感謝申し上げます。



土浦青年会議所 渡邊正嗣さん

65年前のこの場にいた方々はどれだけの苦しみを抱えていたのだらうと爆心地跡でふと空を見上げ思いました。私自身、広島を訪れたのは初めてで、実際に広島この場所で観る原爆ドームは核兵器の破壊力の凄まじさや悲惨さとして被爆の恐ろしさを物語っており、今まで教科書やテレビなどで見る原爆ドームとは違っていました。

8月6日午前8時15分、平和記念式典にて原爆による犠牲者に対して黙とうを捧げながら、今日、日本が平和でいられるのも被爆者の方々や戦争で犠牲になっている方々の上に成り立っているのだなと平和の有り難さを感じました。

恒久の平和は今を生きる私たちの手にかかっています。平和について今一度考え、このような悲惨なことが繰り返されないよう、平和と命の尊さを一人でも多くの人に伝えていきたいと思えます。この度、平和使節団の一員として平和記念式典に参列させて頂いたことに深く感謝いたします。



土浦五中 教諭 内藤雅巳さん

21年前、大学生であった私が初めて広島平和記念公園の資料館を訪れ、原爆の恐ろしさに足が震えたことを昨日のことのように思い出しました。再び広島を訪れ、改めて原爆の恐ろしさ、戦争の悲惨さ、そして平和の尊さを学ぶ貴重な体験となりました。今回の平和記念式典は米駐日大使や国連事務総長の参列で注目を浴びましたが、広島や長崎の人々の思いを伝えていくことは、我々日本人の責務でもあるのではないかと思います。

した。平和使節団に参加させていただいたことに感謝するとともに、平和使節団が今後も継続されることを願っています。また、自分も子ども達に平和の尊さを伝えていきたいと決意しています。



土浦一中 2年 酒寄留奈さん

私は、ホテルの部屋に入ってます、窓の外を見ました。そこには、高いビルが並び、たくさん車が走り、原爆のせいで75年は生えないといわれた木や草、花がありました。「本当にここに原爆が落ちたのか」と疑うほどでした。

しかし、原爆ドームに行くところ、周辺は「核をなくそう」という団体が多く、ドームの周りのがれきや「原爆の子の像」を見ると、「原爆が落ちた」という事実を簡単な歴史としてはいけない」と思いました。

今の私たちに「戦争」は関係ないけど、それを学び、多くの人に伝えていくことは、核をなくすことにつながるのかなと思います。



土浦二中 2年 徳永 翼さん

昭和20年8月6日広島に人類史上初の核兵器が落とされました。今まで人類が体験したことのなかった恐怖に広島は包まれました。それから65年がたち、人々はまた平和に生活を営みはじめています。ですが、広島の人たちは65年前の悲劇を忘れることはできません。生活の至る所に核兵器の悲惨さを語る物があるし、現在も犠牲者は増え続けています。私が平和記念式典に参加して感じたことは、これ以上核や戦争によって人が亡くなってしまうのはおかしいと思う人が沢山いるということです。一人一人の力では、あまり力が出なくても、人々が団結すれば世界を平和にすることが可能です。私達は同じあやまちを再び繰り返ささないように団結して世界を平和にしていかなければなりません。



土浦三中 3年 松原弘樹さん

僕は、今回平和使節団として広島へ行くことも多くのことを学びました。その中で特に学んだことは、平和の大切さや素晴らしい肌で感じました。原爆ドームや平和記念資料館の観覧や平和記念式典への参加、灯ろう流しの体験などを経て、改めて戦争の悲惨さや平和のありがたさを感じられたと思います。今現在、僕たちの身近な人たちが戦争を体験してきた人たちは少なくなくなってきています。それと共に平和の大切さがうすれゆく時代でもあると思います。そこで僕達が実際、肌で感じた「戦争の悲惨さ」を伝えて、今後の世界平和維持にむけて努めていきたいと思っています。



土浦四中 2年 松本がおりさん

私が広島に到着したときに「本当にここにあの恐ろしい原爆が落とされたのか」と思いました。

1945年のあの頃の面影は全くなく、とてもきれいな街並みのようでした。資料館などを見て、びっくりする事ばかりでした。今回の体験でやはり戦争は無残だなあと感じました。そして、広島に落とされた原爆をもつ絶対に落とさないでほしい、と強く思いました。今回の体験では、とても貴重な体験がたくさんできたので、今回の体験を忘れず、これからも「平和」を訴え続けたいです。



土浦五中 2年 宮 隼さん

僕は、8月5日から7日までの3日間広島に行き、戦争の悲惨さ、平和の尊さを学びました。資料館に行っ

て思ったことは、戦争は関係のない人々まで巻き込み、子どもたちから自由を奪ってしまうものだと思います。「核兵器廃絶」という夢をかなえられるように、そして、一度と戦争というものが起きてはならないと思います。



土浦六中 2年 井本いずみさん

8月5日から7日まで私たちが平和使節団はとても素晴らしい体験をしました。原爆ドームは、想像していたものよりもひどく、ショックと「何でこんなことが起きてしまったんだろう」と思いました。外国の方も多く、日本人だけが平和を祈っているのではなく、他の国も平和を祈っているということがすごくよく分かりました。

この3日間で学んだことを自分以外の人にきちんと伝え、原爆という二度と起きてはならないことを知ってほしいと思います。



都和中 2年 河原井 吟さん

私たちが平和使節団は、とても貴重な体験ができました。

3日間という短い期間ではありましたが、平和であることのすばらしさを核兵器の恐ろしさなどたくさん学びました。

今回、たくさん学びました。一日でも早く世界から核兵器がなくなると、世界中の人々が幸せに暮らすことができます。



新治中 1年 伊藤雅浩さん

僕が今回平和使節団に参加して思ったことはたくさんありますが、特に心に残ったことは、つい最近に人間同士が戦いをしている、今も、世界の国々で戦いをしていく国があるということについてです。

僕は昔の日本のように、たくさん犠牲者を出していくのは止めてほしいからです。だからもう戦いをせず、平和な国にしていきたいと思いました。

(すべて原文のまま)